

とちぎ義博 議会レポート



第7号 2000年7月28日発行
 発行者:福岡市議会議員 栃木義博
 〒814-0001
 福岡市早良区百道浜1-3-13-305
 TEL.845-7669 FAX.845-8511
 E-mail:tochigi@bronze.ocn.ne.jp

CLUB MET
 SCHEDULE

10日(木)	都市交通特別委員会
16日(水)	議員定数調査特別委員会
17日(木)	第4委員会
18日(金)	第5委員会
21日(月)	少子化高齢化特別委員会
29日(水)	第1委・第4委 出張(～8/31)

5日(火)	大都市税務財政協議会総会
6日(水)	中国広州人民代表訪問団来福
8日(金)	福祉のまちづくり推進大会
18日(月)	アジア文化賞授賞式
下旬	第4回定例会議(予定)

11日(水)	都市交通特別委出張予定(～10/12)
24日(火)	高齢者スポーツ大会

6月定例議会の質問から

次の2点について質問しました。

- ・福岡市経営管理委員会の提言実行について
- ・百道浜の超高層マンション建設計画について

行政サービス向上のための「DNA計画」 経営管理委提言実現の具体策は

栃木 市長の諮問機関・福岡市経営管理委員会(委員長・石井幸孝)R九州会長)の提言が四月末、提出されました。

この提言に盛り込まれた「DNA2002計画」は、いわゆる「お役所仕事」を改めて、市民への行政サービスを向上させ、市民からの信頼を得ていくうえで、また市役所職員の仕事への誇りと意欲を引き出すうえで大変、意義あるものです。

市はこれを、どのような組織、スケジュールで実現していきますか。

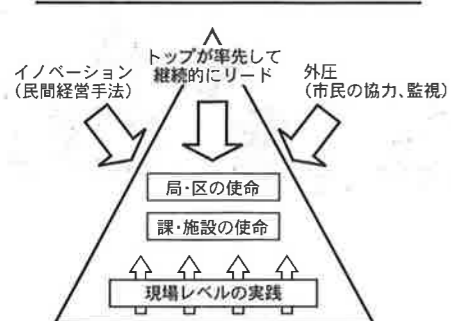
行政経営推進委を設置

福岡市 この提言には行政の過去の業績などが、あまり盛り込まれていないのではないかという声や戸惑いが、職員の間にも一部あったのは事実。

しかし、この提言の精神を行政の末端まで浸透させ、市民のために働く行政のプロとしての職員の自主性を引き出し、仕事のやりがいを持てるようにすることが重要だ。

提言を実行する組織として、市三役、局長らによる「行政経営推進委員会」(仮称)を発足させ、まずはできることから始める。具体的な成果を通して変わっていく市役

「行政経営」確立に向けた抜本経営改革(提言より)



とちぎ義博は6月30日、民主・市民クラブを代表して、福岡市の市政改革を目指す「DNA2002計画」と、市民生活の影響が懸念される百道浜の超高層マンション建設計画について質問しました。議会質問へのご意見をお寄せください。メール、はがき等でも結構ですが、毎週月曜日午前7時15分から一時間半、西新・脇山口交差点に立って、直接市民の皆さんとお話していますので、気軽にお声をかけてください。

所の姿を市民に伝えていく。
 (答弁=山崎市長、友池助役)

72万世帯のTV電波に影響か？ 百道浜の超高層マンション計画

栃木 シーサイドももち地区に37階建て、高さ135mの超高層マンション建設計画が進められており、周辺的生活環境への影響や住民が取り組むまちづくりとのかき離れが懸念されています。

また同地区内の放送局が発するテレビ電波をこのマンションが遮り、県内72万世帯に影響が出るとの指摘もあります。

市は事実をどのように捉えていますか。まちづくりの整合性の観点から、開発業者と住民との問題を調整する仕組みづくりの制度研究を要望します。

現行制度運用で対処

福岡市 福岡タワーからの眺望、

景観に配慮した同地区の建築物への高さ制限は、事業者と協定を結んでいる。しかし当該の超高層マンションは福岡タワーに近接しておらず、この対象ではない。

テレビ電波の遮断については、世帯数は把握していないが影響が出るのは事実。現在、建築業者とテレビ局が話し合いをしており、福岡市もこの話し合いの促進を図る。

まちづくりの整合性については、民法、都市計画法などに基づく建築協定、景観形成地区指定など、現行制度の適切な運用を図り対処していく。

(答弁=美山助役、経済振興・港湾・建築局長)



福岡市博物館横の超高層マンション建設予定地

論点 続出するマンション建設問題の底流

福岡市議会議員 栃木義博

住民と建築業者との間でマンション建設をめぐるトラブルが続出しています。日照や景観など問題はさまざまですが、その本質は、法律に基づく規制が住民の思い描く地域像と整合せず、建築業者に有利に働いて乱開発を招くのではという住民側の危惧と、トラブルを当事者間に委ねる行政の姿勢に対する不信です。

住民と行政の協働によるまちづくり計画策定の必要性を痛感します。その計画が実効性を持つには、日常的な生活単位である小学校区まで木目細かく、住民の自己決定を尊重するものであることが大切です。計画は住民と行政がともに納得し、責任を分かち合うものでなければなりません。またトラブルの発生に対しては行政がもっと調整機能を発揮すべきでしょう。「参画と責任」による仕組みを創り出せるかどうか、マンション問題解決の鍵を握っています。

【一緒に話そう】衆院選結果と福岡市の今後について

市民との語らいの中から、福岡市の確かな行方を描き出していきたいと、とちぎ義博と市民との座談会を企画。今回は、いずれも早良区に生活と仕事の拠点がある長峰秀鷹さん(都市環境デザイナー)と田中洋子さん(主婦)とともに、衆議院選挙結果や福岡市の今後について語り合いました



田中洋子さん

長峰秀鷹さん

市民と行政が一緒に汗を流す 一体感から
 都市の誇りや品格が生まれる 一栃木

市民参画の仕組み作り
 栃木 「日本一元気な都市」と言われた福岡。豊かさの質が問われる今、それだけでいいのか。長峰 「元氣」は必要。だが一方で、都市の品格や誇りも大事。市民と市長、議員、市職員との夜なべ談義や視察・研修があってもいい。市民参画の仕組み作りを急ぎたい。

市民と行政が一緒に汗をかくことで、その一体感の中から都市の誇りや品格が生まれる。例えば市民と市長、議員、市職員との夜なべ談義や視察・研修があってもいい。市民参画の仕組み作りを急ぎたい。

田中 確かに子どもたちに「何が欲しい」と聞いても大した物はほしがらない。何か違う豊かさを求めているように思う。子育て世代の暮らし難さは厳然とあるけれど...
 長峰 子育て世代が社会や未来を考えると、その代に次代の社会の姿を描き出す力がある。

田中 確かに子どもたちに「何が欲しい」と聞いても大した物はほしがらない。何か違う豊かさを求めているように思う。子育て世代の暮らし難さは厳然とあるけれど...
 長峰 子育て世代が社会や未来を考えると、その代に次代の社会の姿を描き出す力がある。

田中 確かに子どもたちに「何が欲しい」と聞いても大した物はほしがらない。何か違う豊かさを求めているように思う。子育て世代の暮らし難さは厳然とあるけれど...
 長峰 子育て世代が社会や未来を考えると、その代に次代の社会の姿を描き出す力がある。

西新通り交差点の右折レーン増設—渋滞緩和に期待!!

都市高速百道ランプに出入りする車で深刻な渋滞が続く早良消防署から西新通り交差点までの約100メートルで右折レーン一車線を増設させました。サミット蔵相会合を機に百道浜校区自治連合会の要請を受け、一緒に市に働きかけ、実現したものです。

同地区では、来年初の都市高速百道ランプから西区福重への延伸により、渋滞緩和が期待されますが、将来を見据えれば、幹線道路と生活道路の厳格な区分や、自動車交通の需要抑制策など、抜本的な道路交通行政の転換視点が必要です。



右折レーン一車線が増設(よかどヒヤ通り・西新通り交差点)

冒若者よ 忍耐の価値を見いだせ

ラテン語の復習を廃止してから、学生の基礎学力とリわけ正確な理解力と表現力が低下してきています。フランスの教育界の一部で懸念されている。わが国でも英語学習を小学校でもという主張に対し、まずは母国語の実力養成を、と明治維新を断行した先達の例に倣って論議などの素読から始めるべきとの反論がある。

これは基本基礎の重要性を強調する事例であるが、しかし、その学習はとかく単調で面白くない。目先の「利口さ」の闘いになる。この闘いに勝ち抜く方法は唯一。目先の格好良さ目をして、ひたすら基本基礎の学習に打ち込むべきことである。ここでの忍耐に価値を見出し得ない者こそ、一生の「おろか者」である。



西南学院大学教授 小森俊介さん

冒若者よ 忍耐の価値を見いだせ

栃木 今回6月の衆議院選挙は、福岡では民主党の得票数が自民党のそれを上回ったものの、全体では自民党が小選挙区で勝ち、民主党が比例で復活する結果となった。長峰 有権者が両側にプレした。自分の生き方を求める気持ちと、利益誘導を求める気持ちを捨てられない本音が攻め合っている。パブルで変な豊かさを手に入れた日本人が生き方の価値観を問われる選挙だったのに...。田中 「神の国」発言で失

新しい価値観と、利益誘導の本音が攻め合った選挙だった—長峰
 望し、国民を小バカにした亀井発言に憤慨して、自民党ではだめだ、変えなきゃ、という人は多かった。ただ、一方では、野党の政策も心に響いてこない感じはあった。
 長峰 戦後、自民党が描いてきた豊かさのビジョンが崩壊していることを自民党は認識していない。対して野党も、それを打ち破る新しい豊かさのビ

ジョンを、具体的なイメージでリアリティーを持って示せていないのだ。
 栃木 政治が有権者や社会の変化に鈍感だということでは少子化の問題に注目したい。「未来」を犠牲にして目先の豊かさだけを追い求める社会の構図を転換しないと、この問題は解決しない。
 長峰 本来、社会が豊かならば、子どもに未来の希望を託そうという人が増えていいはず。そうならないのは、今の社会が本当の意味で豊かではないからではないか。

例えは福岡市の文化行政、もつと
 市民の目線に降りてきてほしい—田中
 りをどう持つかがこれからの課題だ。
 田中 ある街の文化施設に友人が行った時のこと。傍らの男性が熱心に展示の説明をしてくれて感激した。実はその男性は施設の館長だったという。福岡市は、例えば文化行政ひとつにしても、もつと市民の目線に降りてきていいのではないか。そこから、立派な施設も私たち市民の物なのだという誇りが生まれてくる。
 栃木 市民と行政が一緒に汗をかくことで、その一体感の中から都市の誇りや品格が生まれる。例えば市民と市長、議員、市職員との夜なべ談義や視察・研修があってもいい。市民参画の仕組み作りを急ぎたい。

※このコーナーでは、最近の「17歳」についての報道や、学校教育の姿など、青少年をめぐる問題について、それぞれの立場からの意見を掲載します。